

令和 6 年度

運営に関する計画

令和 6 年 2 月

大阪市立敷津浦小学校

大阪市立敷津浦小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の課題としては、豊かな人権感覚を身に付けさせると共に、「基礎・基本的な学力の定着と向上」「基本的な生活習慣の育成」「教師の指導力の向上」があげられる。

「基礎・基本的な学力の定着と向上」については、普段の授業による教科指導だけでなく、家庭での学習の充実等も含めた教育活動全体の取り組みを通して、基礎・基本の定着と学ぼうとする意欲（学習意欲）を向上させていくことが大きな課題である。また、若手教員が多い現状からも「教師の指導力の向上」が喫緊の課題である。人権教育を柱とした本校の特色ある取り組みを継承・発展させるとともに、教科・領域等での基本的な指導力の向上を図り、児童が「わかりやすい」「楽しい」と思えるよう、指導力の向上に取り組んでいかなければならない。また、学習用端末についても積極的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びの実現へつなげていかなければならない。

「基本的な生活習慣の育成」については、自立した生活態度につなげていくことからも児童への指導と共に、保護者への働きかけも行っていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を 65% 以上にする。
- 令和 7 年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 88% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
- 令和 7 年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 93% 以上にする。

基本的な方向 5 健やかな体の育成

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに 2 ポイント向上させる。
- 令和 7 年度の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 93% 以上にする。
- 令和 7 年度の校内アンケートにおける「健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の 93% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向 6 デジタル DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 令和 7 年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の 90% 以上にする。
- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55% 以上にする。
- 令和 7 年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の 85% 以上にする。

基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1（1 か月の時間外勤務時間 45 時間以内かつ 1 年間の時間外勤務時間 360 時間以内）を満たす教職員の割合を 80% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- ・今年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%にする。
- ・今年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を 60%以上にする。
- ・今年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上にする。

基本的な方向2 豊かな心の育成

- ・今年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を 82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・今年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
- ・今年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。

基本的な方向5 健やかな体の育成

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに 1 ポイント向上させる。
- ・今年度末の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。
- ・今年度末の校内アンケートにおける「健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向6 デジタル DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ・今年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の 85%以上にする。

基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・令和 7 年度における第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1（1 か月の時間外勤務時間 45 時間以内かつ 1 年間の時間外勤務時間 360 時間以内）を満たす教職員の割合を 80%以上にする。

基本的な方向8 生涯学習の支援

- ・今年度の校内アンケートにおける「読書が好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の 85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%にする。 ・今年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を 60%以上にする。 ・今年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上にする。 <p>基本的な方向 2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を 82%以上にする。 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや問題行動の未然防止に努め、いじめの早期発見、早期解決に取り組む。 ・起こったいじめに対して、大阪市いじめ対策基本方針及び敷津浦小学校いじめ対策基本方針に基づいて適切に対応する。 ・毎月、各学年で児童の様子を記録した文書を作成し、生活指導部を中心に全職員で共通理解を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを学期に 2 回以上実施し、認知したいじめをすべて解消する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内で学期ごとに 2 回いじめアンケートを行うことで、いじめの早期発見、解決に取り組むことができた。 ・長期休み前後にいじめアンケートを行い、子どもたちの状況把握に努めることができた。 ・心の天気の積極的な活用を心がけることで、児童の気持ちの変容を事前にキャッチすることができた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、いじめアンケート定期的に実施し、いじめの早期発見解決に努める。 ・「いじめはいけない」ことを理解していても、気づかない間にいじめに関わっている問題が発生していることから、次年度も「いじめの芽を見逃さない」という姿勢で指導にあたる。 ・いじめアンケートに書かれていない事案がある可能性を考慮し、子どもが相談しやすい環境を作り、相談できる場がたくさんあることを児童に周知する。(心の天気、教員の声かけ、相談機能等) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容② 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を推進し、児童や教職員の人権感覚の育成、向上を図る。 ・人権デーを学期に1回実施する。実施後には振り返りや共通理解を図り、児童の互いを大切にしていくこうとする態度を養う。 	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を82%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内で人権研修を実施し、教職員の人権感覚の育成、向上に努めた。 ・児童の実態に応じた「人権デー」が展開できるよう、部会を中心に打ち合わせをすることができた。児童アンケートでも「よく考えた」と答える割合が85.6%で、年度当初の目標を達成することができた。 ・実施にあたり取り組み方には学年で差があるようにも見える。部会のメンバーだけでなく、学年全体で教材に向き合うことで、教職員の人権感覚をさらに高められるようにしたい。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教職員全体の人権感覚の向上に努める。来年度は同推協公開授業研究会もあるため、部会、学年、学校全体でより丁寧に人権デーに向き合い、子どもたちの人権感覚の育成、向上に取り組む。 ・人権デーを複数日設定することで、自分の学級、学年以外の様子も相互に参観できるようにする。 	

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。 ・今年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。 <p>基本的な方向 5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに 1 ポイント向上させる。 ・今年度末の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の確実な習得を図るために昼の学習の時間に算数タイムを設ける。 ・算数科の授業において、児童が 1 時間の学習過程が分かるノートの使い方を身につけられるように指導する。 ・教員の指導力向上をめざし、校内研修（メンター研修等）を企画し、計画的に実施する。 ・全教員が対話的な学習をめざして、1 回以上の研究授業を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について肯定的な回答をする児童の割合は 88.0%で年度当初の目標を達成することができた。 ・週 3 回の算数タイムでは、各学年児童の実態に応じて、教材を準備し、取り組むことで基礎基本の定着につなげることができた。 ・1 時間の学習過程が分かるノートの使い方の指導を重ねた結果、身についている児童が増えてきた。 ・メンター研修、研究授業を計画通りに実施し、指導力向上につなげることができた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に前向きな児童は多くなってきたが、活用力が定着していないためか、全国学力学習状況調査での結果へと結びつけるには、まだ課題があるようを感じる。 ・現在の取り組みを継続して行う中で、身についた知識を活用する力を育てられるような教育活動を推進する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容② 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 「体つくり運動」などを実施し、児童が体育を楽しいと感じる場を設定する。 「かけあし週間」や「なわとび週間」などを実施し、学習カードを活用することで児童の学習意欲を高められるようにする。 	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「体育の授業が楽しい」の項目について肯定的な回答を 90%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートにおける「体育の授業が楽しい」項目について肯定的な回答が 93%と年度当初の目標を達成することができた。 かけあし週間、など運動に取り組む週間が適切に実施することができた。その中でがんばりカードの活用や成績上位児童の表彰など、児童の意欲が高まるような工夫が結果へと結びつけることができた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加している児童とできていない児童の差が生じることもあった。声かけや学年配当の時間を作ることで参加できる児童を増やしていく。 かけ足週間やなわとび月間で委員会などが活躍できる場を設けるなど、児童が主体的に活動できるような取り組みを考え、実践する。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容③ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 児童がハンカチを身につけ、手洗い・うがいの後に手をふく習慣をつけることができるよう指導を行う。 週に1回、保健委員会が各学級をまわり、ハンカチ・ティッシュを身につけているかチェックを行い、あいうべ体操を実施する。 	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートで「健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答を 90%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートの項目は肯定的な回答が 95.0%と年度当初の目標を達成することができた。 保健委員会の活動と、各学級での声かけにより、手洗いのハンカチ、ティッシュを身に着けたり、手洗いする習慣をしたりする習慣が身についている。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 習慣づいていない児童への継続的な声掛けが必要。 忘れてくる児童は固定されているので、家庭への声かけも行っていく。 	

年度目標	達成状況
<p>最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>基本的な方向6 デジタルDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 今年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。 <p>基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の時間外勤務時間45時間以内かつ1年間の時間外勤務時間360時間以内）を満たす教職員の割合を80%以上にする。 <p>基本的な方向8 生涯学習の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の校内アンケートにおける「読書が好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 デジタルDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、デジタル教材や協働学習支援ツールを用いた学習を週3回以上実施する。 デジタル教科書を積極的に活用することで学習効果を高める。 Teamsを活用して学習できる環境整備を行う。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的回答をする児童の割合が90%と目標を達成することができた。これらは、デジタル教科書や協働学習支援ツールを積極的に活用できた結果である。また、校内アンケートをパソコンで行ったり、学校行事ではMicrosoft Teamsを活用し中継を行ったりするなど、ICTを日常的に活用できる環境が整いつつある。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて、SKY MENUやPowerPointを活用した協働学習を取り入れていく。 心の天気から子どもの様子を迅速に把握し、適切な対応や声かけを行えるようにしていく。 	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>達成 状況</p>
<p>取組内容② 【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が勤務時間を意識しながら日々の業務にあたることで、業務におけるパフォーマンスを上げられるようにする。 ・週に1回「ゆとりの日」を設定し、できる限り定時での退勤を促す。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の時間外勤務時間45時間以内かつ1年間の時間外勤務時間360時間以内）を満たす教職員の割合を80%以上にする。 ・「ゆとりの日」において、17：30までに退勤する教職員の割合を85%以上にする。 	<p>A</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・基準1（1か月の時間外勤務時間45時間以内かつ1年間の時間外勤務時間360時間以内）の指標80%に対して、94%と目標を達成することができた。これらは、ゆとりの日を意識し、時間差勤務を活用するなど、勤務時間を考慮しながら業務に取り組んできた結果である。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・業務が多岐にわたり、一部の教員の負担が増えている。次年度からは、各部会でタスクの優先順位や割り当てを明確にし、効率的に業務に取り組むようにする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	<p>達成 状況</p>
<p>取組内容③ 【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、様々なジャンルの本に読書の幅を広げられるように、学校司書等の人材と協働しながら図書館の本の配置を工夫し、環境整備を行う。 ・図書館利用回数や年間貸出冊数を増やすために、多読者の表彰や読書月間を実施するなどの取り組みを充実させる。 ・読書に対する意欲向上のために、学校司書や市内の図書館と協働し、読み聞かせやお話の会などの取り組みを充実させる。 	<p>C</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を85%以上にする。（昨年度85%） ・今年度の貸出冊数について、昨年度の数値を上回るようにする。（昨年度17676冊） 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・学校図書館司書やボランティア、はぐくみネット等と協働しながら、本の配置の工夫や学級文庫の充実を行うなど、読書環境の整備を行うことができた。
- ・学期ごとに読書月間を開催したり、多読者を表彰したりするなど、図書館利用回数や年間貸出冊数の向上につながるよう取り組みを行った。
- ・児童の読書意欲向上のために、毎学期 1～2 回程度、学校図書館司書による読み聞かせを設定し実施することもできた。
- ・2 学期には住之江図書館ボランティアによるお話の会も開催し、学校全体で読み聞かせを聞く機会を設けることができた。

以上のように、計画していた取り組み内容を実施することができた一方で、校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について肯定的回答をする児童の割合が 83% と目標を達成することができなかった。貸出冊数については、貸出用パソコンの不具合により数値をとることができなかつた。

次年度への改善点

- ・取り組み内容については、今年度計画通りに実施することができたため、次年度も継続して行っていく。
- ・指標を達成するために、金曜日の朝に設けられているしきつうらタイムを活用し、本やお話に触れる機会を保障していく。本を読むための時間とするだけでなく、学校図書館司書と協働し撮り貯めた動画を、Microsoft Teams などの ICT を活用し配布することで、その時間に読み聞かせを聞くこともできるようにするなど多方面から読書につなげられるようアプローチしていく。